

上野俊之丞のこと その2

2 上野家の祖先

ここではおもに古賀十二郎著「雑録」（長崎歴史文化博物館蔵 古賀 15/39）から上野家の祖先についての記述を抜き出して紹介します。

【上野英智】

上野家の祖先は、もと佐賀の鍋島家に仕えた人物で詳細不明ながら文禄・慶長の役に鍋島直茂にしたがって従軍し、戦功があったが、陣没したという。

【上野若元】寛文 8 年(1668) 7 月 11 日～延享元年(1744) 5 月 19 日

画才にすぐれて、河村若芝に師事し、一時期、やはり鍋島家に仕えたが、主君綱茂がなくなると遺骨をもらい長崎に帰った。

【山本若麟】享保 6 年(1721) 3 月 5 日～寛政 13 年(1801) 正月 4 日

名を丹次郎又は長昭、若麟と号し、「若麟の虎」と称されるほど虎図に優れた。一時期、出島町乙名附筆者または唐方遣用支配人という地役人を務めていた。その時は山本姓を名乗った。若麟肖像画（若瑞画）の賛に「・・・其所の宰の君に仕へし間は、ゆゑ有りけらし、家号の上野を変へて山本と云ひけり。・・・」とある。

【上野若瑞】宝暦 8 年(1758) 12 月 25 日～文政 10 年(1827)閏 6 月 17 日

上野泰輔、河村泰輔ともいう。諱は長英、字は稲光、若瑞と号す。花卉鳥獣人物画を善くし、特に肖像画に巧みであった。銀屋町の傘鉾飾り「流金出世鯉」の収納箱に作者名として「文政三年山本泰輔長英」とある人物と同じか（本馬貞夫レジュメより）。



山本若麟「水呑虎図」
(長崎歴史文化博物館蔵)



上野若龍「七宝孔雀香炉下絵」
(長崎歴史文化博物館蔵)

【上野若龍】寛政 2 年(1790)3 月 3 日～嘉永 4 年(1851)8 月 7 日

上野俊之丞、諱は常足、若龍と号す。居を停車園と名付ける。上野氏の宅は銀屋町にあったが、停車園は中島の邸宅をいう。はじめ長崎奉行直属の御用時計師をつとめ、幸野俊之丞と称す。画業を嗜み、時計の製作・修理する技術を持ち、舎密学（化学）に造詣が深く、硝石製造、更紗製造、彫金、鑄造など幅広く研究した。薩摩藩から遊学していた松木雲徳と知り合い、一時期、松木は上野家に止宿していた。松木雲徳の養子藤太郎（後の松木弘安）も上野家から近くの寺子屋に通った。

天保 12 年(1841)年には薩摩藩士松木とともに鹿児島に赴き、藩主斉興より西洋機器薬物類製造の命を受けた。天保年間、中島に製煉所を設けて、塩硝の製造に従事。天保 14 年(1843)にその製煉所は長崎奉行所の直轄となった。嘉永元年(1848)には、輸入されたダゲレオタイプ写真機を入手している。

【長崎県文化振興課 山口保彦】